

虚弱体質改善には小建中湯が一般的

Q 十歳になる長男は顔色が悪く、食が細く、いつもおなかをこわしたり、かぜをひいたりしています。昨年から頻繁に夜中に足が痛むといつて熟眠できないようです。小児科では「成長痛」とのこと。漢方で何とかならないでしょうか。

くちびるが乾燥しやすい、つめの色が悪く「ささくれ」ができてやすい、胸郭変形がある、手足が冷たい、暑さ寒さに弱い、鼻血がやすい、乳幼児なら眉間（みけん）に静脈が浮いて見える、などである。

A 「虚弱体質」といわれ、小児科を頻繁に受診する子供は少なくない。西洋医学では症状に対する対症療法に終始することが多く、学童期になってもなかなか改善せず病院通いを続ける例も目立つ。漢方医学では虚弱体質を根本的に改善する薬があるので試みることをお勧めする。

質問者のような夜中に足のうずくことは成長痛でも起こるが、漢方ではこれも虚弱体質の兆候としてあげている。このような体質を治す漢方薬として最も一般的なのは小建中湯（しょうけんちゅうとう）である。おなかの弱い子、かぜをひきやすい子、アレルギー体質の子に頻用される。

虚弱児の特徴として漢方では次のような兆候が現れやすいとしている。顔色が悪くおとなしく元気がない、骨格がきゃしゃで肉付きが悪い、

寝汗がやすい、皮膚につやがないなどさらに虚弱な子には黄耆建中湯（おうぎけんちゅうとう）がよく用いられる。